

AIでアーモンド選別

月末稼働 効率化&精度アップ

富士倉庫(坂口雅彦社長、横浜市中区)は9月末から、AI(人工知能)を活用したアーモンドの選別機を同社の選別施設で稼働させる。同社によると、

富士倉庫

菓子ニーズに対応

アーモンドのAI選別機の導入は国内初。自動化で効率化と選別精度アップの両立を図り、菓子メーカーなどのニーズに対応する。(吉田英行)

横浜港本牧ふ頭D突堤(同区)にあるナッツ類の選別・流通加工施設のアーモンド選別ラインに導入する。同施設は保税地域内で選別作業を行えるのが特徴で、エックス線検査機や金属探知機、クリーンルームなどを備え、食品工場並みの高い衛生・品質環境下で異物検査、選別作業を行っている。

2年前から、AI技術を

活用した画像処理アルゴリズムなどに独自のノウハウを持つ企業と共同で選別機の開発に取り組み、このほど完成した1号機を国内で初めてアーモンドの選別作業に使う。

アーモンドは主に米国から輸入したもので、菓子を中心に幅広い用途があるため豆類の中でも落花生などと比べて輸入量が圧倒的に多い。また、高級チョコレート・洋菓子では美が欠けていたり、傷付いたりしているものは使えないが、傷のあるものは砕いて加工用に使われるため、効率的かつ高精度の選別作業が重

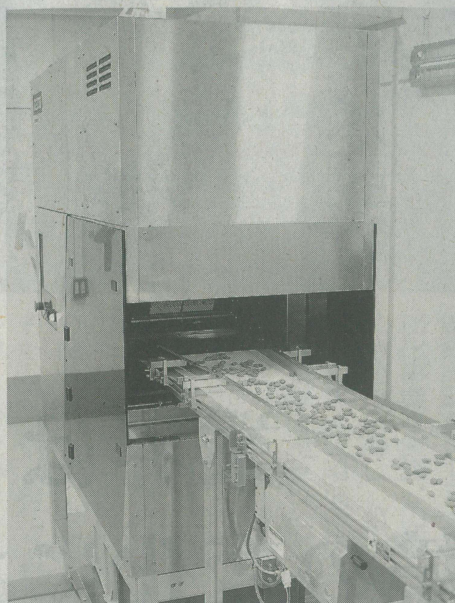
要となる。

そこで、AIを活用し、これまで手作業に頼っていた選別を自動化。カメラで実の状態を認識し品質基準に従って選別する。

同社は1972年にコーヒードの取り扱いを開始。2019年に落花生、20年にアーモンド、21年にはココナッツの選別業務をスタートしている。23年6月には、米サンディエゴ州立大

学の教授30人が倉庫と選別機の視察に訪れるなど、先進的な取り組みが海外からも注目されている。

坂口社長は「既に菓子メーカーも視察に来ていて、新たな試みにチャレンジし投資を惜しまないのが当社の社風。常にお客さまの立場で品質管理を考え、最適な方法を取り入れていきたい」と話している。



国内初導入となるアーモンドのAI選別機